

理研の決定には驚きました。小保方氏の処分を保留し、再現実験に参加することを発表し、理研のページには小保方氏の意気込みが掲載されています。およそ考えられない展開に啞然としています。「試験で不正行為があったとき、校長や教育委員会が再試験を促すのはおかしいでしょ」というたとえ話を **twitter** に書きましたが、「誰もがうける試験とは違い、特例の適用が検討される場合もあるだろう」という意見があることを知りました。一般論としてはそうでしょうが、今回の場合については、「特例が適用される」状況ではないと考えています。特例の適用を考える理由はおそらく二つあると思います。第1に、「もし実験が本当なら偉大な結果なのだから、その可能性を追求すべきである」という意見。第2に、「事態がこんがらがってしまったので、明晰にするためにそうせざるを得ない」という意見。私はどちらの意見にも賛成しません。その理由を述べます。

まず、私は、<http://d.hatena.ne.jp/sasa3341/20140311> に書いたときから変わりなく、小保方氏には研究者としての資格も資質もないと考えています。博士論文が書けていないどころか、実験ノートもない、科学的な説明もできない。非常に残念で不幸なことですが、おそらく、誰からもまともな指導を受けていないと思います。これが間違っているなら、指導した人は名乗り出て説明してください。特に、「小保方は俺が育てた」と言っていた大和氏は、どのような指導をしたのでしょうか。ぜひ、説明して欲しいです。(2月上旬以来公には姿を消しましたが、5月には **twins** センター長には着任していました。全く不思議です。)

インターネットでは、独創的な天才科学者として持ち上げる記述もみかけますが、そのように考える根拠は何一つないと思います。小保方氏の能力の可能性について期待する、あるいは、その可能性を見たい旨を書かれている研究者もいます。そのように期待する根拠がどこにあるのか私には分かりません。**科学者に対する期待や評価は、その人が残してきた論文やノートや議論にもとづくのだ**と思います。科学の発展において、研究意義が認められるのに時間がかかる場合がしばしばあります。しかし、**どのような場合でも論文があつてそれがゆっくりと検討されてきました**。現時点で小保方氏が関わった研究で検討される論文や実験結果はありません。(辻褄が合わない論文はとり上げられましたので、そもそも検討される題材が存在しません。)

以上により、第一の意見「実験が本当なら偉大な結果だから、可能性を追求すべき」というのは間違っていると思います。**大きな成果につながる可能性の追**

求は、日々の研究の営みとして最初は小規模なところから少しずつ知見を蓄えていくべきで、いかなる結果も能力の欠片も残していない小保方氏を特別に扱う理由は何もありません。

第2の意見は、もう少し微妙です。一見して説得力はあるかのように見えます。しかしながら、こんがらがった事態になったのはどうしてでしょうか。調査をしっかりして、その上でそれに対応した不正認定をしなかったことが発端ではないでしょうか。現時点で「実験は辻褃があっていない」のは間違いなく、保存サンプルや様々なデータからそれを調査することはできたはずで、それをしないのが分かりません。その調査を踏まえてもなお事態が混乱しているなら、最終手段として、本人による現場検証的な実験はありえるかもしれません。しかし、辻褃があっていない諸々に目をつぶりつつ、新たな再現実験を行うという今回の決定は、「過去にあったことをなかったことにする」意図があるように感じます。もし、そうならこれは非常にまずいことだと思います。

理研の対応には理解できないことがたくさんあります。既に多くの方が指摘していることに付け加えることはありません。全てを列挙するのではなく、私がもっとも大事だと考えることを最後に述べます。

私は、<http://d.hatena.ne.jp/sasa3341/20140311> に書いたとおり、何よりも、理研が「小保方氏を採用した理由」が問題だと思っています。センター長が少し説明しましたが、理解できませんでした。「STAP 細胞の可能性に賭けた」という雑談的な一言で済ますのではなく、人事選考過程における議論経緯を説明すべきだと考えています。少なくとも、1) 論文調査について委員会で出たコメント 2) インタビューで出た質疑応答 について明らかにすべきでしょう。一般に、人事選考においては、どのような候補者でも、必ず正の側面と負の側面があり、それぞれについてどのような価値基準で判断するのかについて真剣に議論されると思っています。当該選考について、正負のそれぞれの側面について人事選考に携わった人たちの意見を是非とも公開して欲しいです。この人事選考について説明のないままやりすごすことは、これから科学を志す人のやる気を奪うだけでなく、ある種の怨念として今後日本の科学界にのしかかる気がします。「採用に至った経緯の説明」は非常に大事なことだと思います。笹井氏は「CDBは目利きを徹底的にやる」と発言しましたが、この機会にその詳細を説明すべきでしょう。